

要 旨

本研究では、地理的分野における日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる学習において、地理的な見方や考え方を養うためにICT機器を活用した指導の在り方を探ったものである。授業ではICT機器を活用して、他の地域と比較したり、関連付けたりする活動や調べたことを共有する活動を設定した。このような活動を通して、複数の資料を同時に見ることができ、注目するポイントに気付くようになってきた。また、共通点や相違点を挙げたり、事象間を関連付けたりすることができるようになり、地理的な見方や考え方が養われてきた。

〈キーワード〉 ①地理的な見方や考え方 ②ICT機器の活用 ③比較・関連付け

1 研究の目標

社会科の地理的分野の学習において、地理的な見方や考え方を養うために、ICT機器を活用した学習指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

現代の社会は、情報化の進展に伴い、変化の激しい社会である。この社会で未来を担う子どもに求められるものは、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を養っていくことであると考えられる。

中学校学習指導要領解説社会科編の地理的分野の目標(1)には、「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う」¹⁾とある。社会科では、社会的事実を単に知るだけでなく、その背景を探ったり、事実と事実を相互に結び合わせながら関連を見出したりしていくことで、地理的な見方や考え方を身に付けることができると考える。

平成24年度に実施された佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、本県の中学2年生においては、「社会的な思考・判断」の観点では、「おおむね達成」の基準を4.9ポイント下回っており、特にグラフなどの資料から変化の様子をとらえたり、複数の資料を比較して説明したりする設問において課題が見られた。所属校の2年生の生徒においても、身に付いた知識や資料から読み取った情報を活用し、自分の考えをまとめたり説明したりすることに課題がある生徒が少なくない。これまでの自分の実践を振り返っても、地理的分野の学習において、知識獲得を中心に学習させることに重点を置き、事象間の関連を追究させ、生徒に思考を促すことが少なかったように感じる。

文部科学省から発表された『教育の情報化ビジョン』（平成23年）では、分かりやすく深まる授業の実現のためにICTを活用して、一斉学習に加え、個別学習や協働学習を推進することが求められている。所属校の2年生の生徒においてもICTを活用して調べる学習には意欲的に取り組むが、情報を正しく判断したり、自分の考えを十分もてていなかったりする生徒も少なくない。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、地理的分野の日本の諸地域の特色を捉えさせる学習において、ICTを活用しながら交流活動の場面を設定し、地理的事象を他の地域と比較したり、関連付けたりする活動を取り入れることで、地理的な見方や考え方を養うことができると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

日本の諸地域の地域的特色を捉えさせる学習において、ICT機器を活用して、複数の資料を基に他の地域と比較したり、関連付けたりする活動を取り入れ、調べたことを共有させたりすることで地理的な見方や考え方を養うことができるであろう。

4 研究方法

- (1) 社会的な思考力・判断力・表現力を育成する指導に関する理論研究及びICT機器を活用した指導法の理論研究
- (2) ICT機器の活用に関する意識アンケートやワークシートを基にした生徒の実態把握
- (3) ICT機器を活用した指導の検証

5 研究内容

- (1) 先行研究や文献を基に、社会的な思考力・判断力・表現力を育成する理論研究及びICT機器を活用した実践に関する理論研究
- (2) 意識アンケートやワークシートの記述からICT機器の活用の有効性を整理し、考察する。
- (3) 所属校の2年生における地理的分野「東北地方」（3時間）と「北海道地方」（3時間）で、ICT機器を活用した検証授業を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献による理論研究

ア 地理的な見方や考え方について

学習指導要領解説社会編では、地理的な見方や考え方とは、どこに、どのようなものが、どのように広がっているのかを位置や空間的な広がりとの関わりで地理的事象として見いだすことである。それらの地理的事象を地域という枠組みの中で考察し、そうした地理的事象がなぜそのように分布しているのか、環境条件や他の地域との結び付きに着目して、その背景や要因を地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追求することである。さらに諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から捉えることとしている。

イ 社会科における思考力・判断力・表現力について

小原は、社会科で育成する「思考力・判断力・表現力」とは、社会的事象や問題を「読み解く力」であり、社会的事象に対して「どのように、どのような」「なぜ、どうして」「どうしたらよいか」と問いかけ、その背後にある関係性を見つけ、科学的に説明することに答えていく力であり、知る・わかるだけでなく、その背景を熟考し、自分なりの意見や考えをもつことは必要であるとしている。そして、これらの問いに答えさせるために、「資料から必要な情報を集めて読み取る」「社会的事象の意味・意義を解釈する」「事象の特色や事象間の関連を説明する」「自分の考えを論述する」という4つの活動の設定を提唱している。これらのことから、地理的事象の意味・意義を解釈させるとともに、社会的事象の特色や事象間の関連について考察し、説明させることが、社会科における思考力・判断力・表現力を養うためには重要であると考えられる。

ウ ICTについて

中学校学習指導要領解説社会編には、「生徒による主体的なコンピュータや情報通信ネットワークの活用は、知識や概念の習得や、情報の収集、処理、情報の共有や交流、発表などを通して社会科学習をより豊かなものにする可能性をもっている」²⁾とある。中川は、ICT活用の効果

を、①意欲・関心を拡充する、②繰り返しの練習で理解を補完する、③焦点化によって知識を補完する、④拡大提示によってイメージ化を助ける、⑤共有化によって話し合いが活性化する、⑥視覚化によって思考の深化が起こる、⑦授業準備が軽減する、⑧時間の短縮によって本時のねらいの追求に時間を確保できる、という8つに集約している。本研究では、資料提示においてタブレット型端末と電子黒板を活用して複数の資料を提示したり、イメージ化を図ったり、読み取る資料のポイントに気付かせたりすることで、共有化における話し合いの活性化や思考を深化させることができ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成につながると考えた。

(1) 研究の構想

ア 本研究では、単元を「つかむ」「調べてまとめる」「広げる」の3つの段階で構成し、生徒の学習として、8つの活動を設定した。「つかむ段階」「調べてまとめる段階」「広げる段階」の3つの段階における学習の流れとICT機器の活用と教師の手立てを表1に示す。

表1 単元の流れとICT機器の活用，具体的な手立て

	学習の流れ	ICT機器の活用(◇)と教師の手立て(●)
つかむ	1 学習課題を把握する。	◇ 電子黒板で、動画を提示することで、生徒の興味・関心を高める。
	2 比較したり、関連付けたりする考察の方法について知る。	◇ 複数の資料を基に、比較したり、関連付けたりする考察の方法をとらえさせる。
調べてまとめる	3 グループごとの課題について、予想を立てる。 (個人で考える場面、グループで話し合う場面)	● 各グループの視点で、「なぜ～なのか？」という課題に対する予想を立てさせ、「予想シート」に記入させる。 ◇ 各グループの課題は、タブレット型端末で提示する。
	4 複数の資料を基に、資料の収集・選択をする。	◇ タブレット型端末で、グループごとの視点から必要な資料を収集させる。
	5 資料の読み取りを基に、事象の特色や事象間の関連についてまとめる。	● 根拠を資料から読み取り、「説明シート」に記入させる。 ● 他の地域と比較させ、共通点や相違点に気付かせ、「比較シート」に記入させる。
広げる	6 他の地域と比較して、共通点や相違点についてまとめる。	
	7 学級全体で、調べたことを共有する。	◇ 各グループの調べてまとめた内容をプレゼンテーションソフトで作成させ、電子黒板を使って発表させ、共有させることで事象間を関連付けさせる。
	8 学習課題に対する自分の考えをまとめる。	● 白地図を使いながら、比較させたり、関連付けさせたりして「まとめのシート」に地域的特色について記述させる。

イ 検証の視点

生徒の地理的な見方や考え方を養うために、ICT機器を活用した、次の2つを検証の視点として設定した。

【検証の視点Ⅰ】タブレット型端末や電子黒板の活用は、必要な情報を読み取り、他の地域と比較したり、関連付けたりする活動を促進したか。

【検証の視点Ⅱ】ICT機器を用いて共有させる活動は、事象間を関連付ける思考を促すことにつながったか。

(1) 検証授業の実際

ア 単元名 「北海道地方」(全5時間)

イ 単元の目標

- ・ 北海道地方を追究していく過程において、自然環境を中核とした考察の仕方を基に、複数の資料を関連付けながら資料を読み取らせる。(資料活用の技能)
- ・ 北海道地方を追究していく過程において、自然環境を中核とした考察を基に、地域的特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。(社会的な思考・判断・表現)

ウ 単元の概要

本単元は、自然環境を中核として、それを人口や都市・村落、生活・文化、産業などと関連付けて追究させていくことで、地域的特色を捉えさせることがねらいである。

(ア) つかむ段階(第1時, 2時)

北海道地方の気候と地形の特色をつかませることがねらいである。まず、電子黒板を使って北海道地方の観光地や札幌市の様子を動画や航空地図を使って見せ、北海道地方への興味・関心を高めさせた。単元を貫く学習課題「北海道を紹介しよう」を提示した。次に、タブレット型端末で航空地図を拡大・縮小し、それを参考にしながら断面図を書かせることで地形の特色をつかませた(図1)。3つの雨温図を提示し、それがどの都市のものか予想させ、タブレット型端末を使って、北海道地方の夏と冬の降水量と気温などの資料の読み取りを基に考察をさせた。タブレット型端末は1人1台使用し、資料の読み取りを行わせた。図1はタブレット型端末を使って、拡大したり縮小したりしながら注目するポイントを探している様子である。



図1 タブレット型端末を活用している様子

(イ) 調べてまとめる段階(第3, 4時)

北海道地方について、自然環境を中核として、グループごとの視点を関連付けさせることがねらいである。北海道について調べる視点は、グループの数に合わせて8つ(北海道の人口、稲作、畑作、酪農、漁業、歴史的背景、寒さ対策の工夫、観光)を設定した。各視点に沿って、「なぜ~なのか?」という課題を提示して、個人で予想をさせた。その後、グループで予想を出し合い、どのようなことを調べるのかを話し合わせた。グループごとの予想に基づいて、



図2 タブレット型端末を活用した話し合いの様子

タブレット型端末を使い、複数の資料から必要な資料を収集して、読み取りを行わせた(前頁図2)。

(ウ) 広げる段階(第5時)

各グループで、調べてまとめたことを共有させることで、北海道地方の地域的特色を多面的・多角的に捉えさせることがねらいである。グループで、それぞれの課題に対して「予想したこと」「根拠に基づいた説明」「九州地方と比較したこと」をプレゼンテーションソフトでまとめさせ、電子黒板で発表を行わせた(図3)。発表を聞く際には、要点についてメモを取らせ、各グループの発表の評価を行わせた。グループ内で役割分担を行い、全員に発表させた。発表後、共有したことを基に、どこに、どのようなものが、どのように広がっているのかを確認させるために北海道の白地図を活用して、学習課題である北海道地方の地域的特色について説明する「北海道を紹介しよう」を作成させた(図4)。



図3 発表している様子





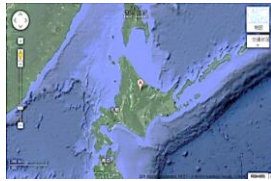
図4 まとめている様子

エ 研究の考察

(ア) 【検証の視点I】について

本研究の「つかむ段階」と「調べてまとめる段階」におけるタブレット型端末と電子黒板の活用の詳細を表2に示す。

表2 北海道地方(1~2月)におけるICT機器の活用の詳細

	教師の手立て(・)と生徒の様子や反応()◇研究に関わるICT機器の活用
つかむ段階	◇ 導入段階における生徒の興味・関心を高めるための活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画コンテンツ共有サイトから「流氷」と「旭山動物園」の様子を提示する。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 200px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;">流氷ってこんなにしているのだな</div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 200px; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;">行ってみたいな</div>  </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ バーチャル地図を使って、北海道の上空から地形の様子を概観させる。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 200px; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;">市街地は札幌市じゃないかな</div>  </div>
	◇ 展開における比較・関連付けさせるため <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を基に比較しながら3つの都市の雨温図を予想させる。




つ か む 段 階	<p>※タブレット型端末で提示した資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の夏と冬の降水量と気温 北海道地方の積雪量 北海道地方の海流の流れ 	<p>札幌市は太平洋側だから雪が多いのかな</p>	
調 べ て ま と め る 段 階	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階における前時の学習を確認するための活用 地図を提示して、空間的位置にとらえさせる ◇ 展開におけるグループでの資料の読み取りにおける活用 <p>※グループで調べる北海道地方の8つの視点</p> <p>北海道地方の人口、北海道地方の稲作、北海道地方の漁業、北海道地方の歴史的背景、北海道地方の寒さ対策の工夫、北海道地方の観光、北海道地方の酪農、北海道地方の畑作</p> <p>※タブレットで提示した資料例(北海道地方の畑作)</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕地面積の統計資料 北海道地方の農業地域の分布図 酪農家の1日の仕事の流れ 国内の乳用牛の飼育頭数の割合 牛乳の出荷量に占める飲用牛乳向けと乳製品向けの割合 九州地方の畑作(比較のため) 	<p>旭川と釧路の気候の違いは・・・</p>	  <p>耕地面積が全国平均の10倍も広いから生産が上位なのかな</p>

表3 グループの疑問に対する予想、根拠を基にした説明、九州地方との比較の記述

課題	なぜ、北海道は畑作が盛んなのか？
予想	平野が多いのではないかな？ 面積が広いからではないかな？
説明	北海道は、平野や盆地が多く、耕地面積も日本の全国平均の約10倍であり、面積がとても広い。また、広大な土地を生かした大規模な農業が多くの主業農家によって行われており、大型機械が用いられている。農作物では、小麦やてんさい、じゃがいも、小豆などの気温が低いところに適した作物が多く生産されており、畑作にも適した条件がそろっている。このような北海道は、日本の食料基地とされていて、畑作が盛んなのである。
九州地方との比較	(似ているところ) 北海道では「てんさい」沖縄や鹿児島では「さとうきび」とどちらも砂糖の原料を生産している。 (違うところ) 北海道地方は、九州地方の約5倍の畑の面積 九州地方では、夏から秋の野菜の生産が多いが、北海道地方では、気候が冷涼なので冬の野菜を作っている。

「つかむ段階」では、生徒の北海道地方への興味・関心を高めるために、電子黒板を使って、動画や立体的に地形を示したバーチャル地図を見せた。生徒は流氷の動きに驚いたり、北海道の中の

どの辺りに市街地があるかが分かったりして、大変興味深く電子黒板を注視している様子が見られた。このことから北海道地方への興味・関心が高まったと考える。また、資料の読み取りにおいては、タブレット型端末を利用した。生徒は、タブレット型端末を手元で拡大操作したり、知りたい所へ動かしたりしていた。生徒にとっては、手軽に、知りたい情報を探すことができ、根拠を見つけ、関連付けやすくなったものとする。

「調べてまとめる段階」においては、北海道地方の畑作について調べたグループの記述を基に考察を行う(前頁表3)。第2時では、「なぜ北海道地方は畑作が盛んなのか?」に対し、「平野が多いのではないか、面積が広いからではないか」といった漠然とした予想を立てていた。その後、タブレット型端末を活用して、資料から必要な情報を集めて読み取る中で、ポイントとなる統計資料などから「耕地面積が全国の10倍であること」に気付くことができ、主観的なイメージから、北海道の畑作の特色を読み取り、「農作物では気温が低いところに適した作物が多く生産されている」という記述にあるように、読み取った事象と気候を関連付けて記述したりすることができるようになってきた。また、九州地方と比較する中で、共通点や相違点にも気付くようになった。これらのことから、タブレット型端末や電子黒板を活用することは、必要な情報を収集して資料を読み取ることや他の地域との比較や事象を関連付けることに有効に働いたのではないかと考える。

(4) 【検証の視点Ⅱ】について

ICT機器を用いた共有させる活動は、事象間を関連付ける思考を促すことにつながったかについて、表4に抽出生徒2名の社会科に関する学習の状況と単元「東北地方」(11月)と単元「北海道地方」(1~2月)におけるワークシートの記述を基に考察を述べる。

表4 抽出生徒の学習の状況と東北地方(11月)と北海道地方(1月~2月)における記述

	生徒B	生徒C
学習状況	学習への意欲は高いが、社会的事象について資料から読み取ったことを、根拠を基にして自分の考えを述べたり、論述したりすることに時間がかかる。	社会科の学習を苦手としており、社会的事象について、調べたりその背景や要因について考えたり、自分の考えを述べたりすることは、ほとんど見られない。
東北地方	東北地方の仙台市の魅力は、銘柄米「ひとめぼれ」です。なぜなら、米はもともと暖かい地方で育つものですが、寒い地方でも育つように品種改良がなされ、おいしくトータルバランスもよくなってきているからです。	東北地方の仙台市の魅力は、豊かな緑です。杜の都仙台と呼ばれ、都市でも緑があふれているのは気持ちがいいからです。
北海道地方	北海道地方では、涼しい気候を生かした畑作と酪農がさかんです。 <u>畑作</u> では、小豆やてんさいなど涼しい気候に適した作物を大規模に生産していて、全国有数の生産量です。 <u>酪農</u> は、生乳だけでなくバターなどの乳製品に加工しており、他の地域に出荷したり、北海道ならではのお菓子作りに役立てたりして <u>観光</u> につなげています。	札幌市には、北海道の約3分の1の <u>人口</u> が集まっていて、札幌市が北海道で一番栄えています。雪の多い北海道の気候を生かした札幌雪まつりも行われています。そのため、札幌市には多くの <u>観光客</u> が訪れます。九州にも博多どんたくなどの有名なイベントがあります。 <u>九州では祭りや伝統的なものが多いのに</u> 対し <u>北海道では、気候を生かしたものが盛んに行われています。</u>

※図中の下線 は事象、 は他の地域との比較を示す。

生徒Bは、東北地方(11月)では、東北地方の仙台市の魅力について、米という1つの事柄を気候という事象と関連させて記述していた。北海道地方(1月～2月)では、第3、4時で北海道地方の畑作について調べ、第1時で学習した北海道の気候の特色と畑作を関連させて述べるができるようになった。さらに、第5時では、全体で電子黒板を用いて共有させたことで、酪農、観光という新たな事象についても関連付けながら記述していた。このように、生徒Bは、東北地方(11月)では、1つの事象と他の事象を関連付けていたが、北海道地方(1月～2月)では、事象を他の複数の事象と関連付けることができるようになった(図5)。タブレット型端末での資料を基に、資料から根拠を見付けさせたり、他の地域と比較させたりしたことが事象と他の事象を関連付けることに有効であったと考える。

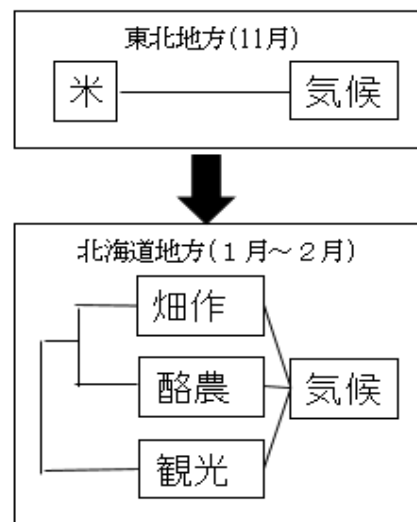


図5 生徒Bにおける関連付けの変容

生徒Cは、東北地方(11月)では、東北地方の仙台市の魅力について、緑があふれているのは気持ちがいいからと、主観的なイメージだけで記述していた。北海道地方(1月～2月)の第4時では、北海道地方の人口について調べ、分かったことと気候の特色を関連させて述べるようになり、第5時の共有させた後では、観光についても関連付けて記述することができていた。自分の生活にも振り返りながら祭りについて、九州地方との違いについても記述することができるようになった。これらのことから、ICT機器を用いて共有させることで、自分が調べたことと他の事象を関連付けながら考察することができるようになり、地域的特色をとらえる力が高まってきたのではないかと考える。

次に、学級全体の東北地方(11月)と北海道地方(1月～2月)におけるワークシートの記述を基に考察を述べる。表5は、ワークシートの判定基準を示す。東北地方(11月)では、根拠を基に1つの事象について記述した生徒(B判定)が73%(19名)、根拠を基に2つ以上の事象から記述している生徒(A判定)は27%(7名)だった。北海道地方(1月～2月)では、根拠を基に2つ以上の事象を関連付けて記述できる生徒(A判定)が65%(17名)と増加した(図6)。東北地方(11月)では、こちらから与えたのは、1つの視点からの考察だったので、多面的な考察には至らなかった。そのため地理的事象を単独で取り上げるのみで、事象と事象を関連付けた記述ができなかったものとする。北海道地方(1月～2月)では、北海道地方について8つの視点からグループごとに資料を読み取らせ、全体で電子黒板を用いて発表させ、共有化を図った。このことで、事象と事象を関連付け、社会的事象として思考・判断・表現しようとし、背後にある関係性に気付けるようになってきたものとする。

表5 ワークシートの判定の基準

	判定の基準	生徒の記述より
A	根拠を基に2つ以上の事象を関連付けて記述している	北海道地方では、冬の気温が低いので、ロードヒーティングの熱で道に積もった雪を溶かしたり、ガラスフードが付いた玄関(略)など寒さへの工夫をしています。寒流や暖流の影響で、漁業も盛んで、さけ・ます、かになどの水揚げや(略)日本有数の漁獲量を誇っています。畑作は、てんさいやじゃがいもなど涼やかな気候を生かした農産物の生産が有数です。このような北海道は、日本の食糧基地と呼ばれています。
B	根拠を基に、1つの事象について記述している	北海道地方の十勝平野や根釧台地では、冬の寒さが厳しく、火山灰地が広がっているため、酪農が盛んです。

※C判定は0人であった。

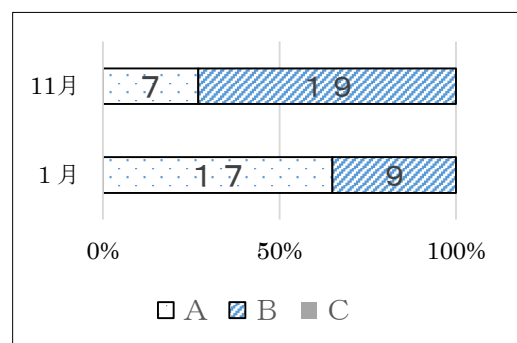


図6 ワークシートの記述の変容

オ 学級全体の傾向にみる考察

タブレットの活用と、電子黒板の活用に関する生徒の意識アンケートを基に、全体の考察を行う。図7の質問項目①の結果では、他の地域と比較する活動を通して、北海道地方の特色をつかむことがよくあてはまると回答している生徒が77%(20名)であったことから、他の地域と比較する活動を設定したことで、地域的特色を捉えやすくさせるために有効に働いたものと考えられる。質問項目②の結果では、資料を基に根拠を述

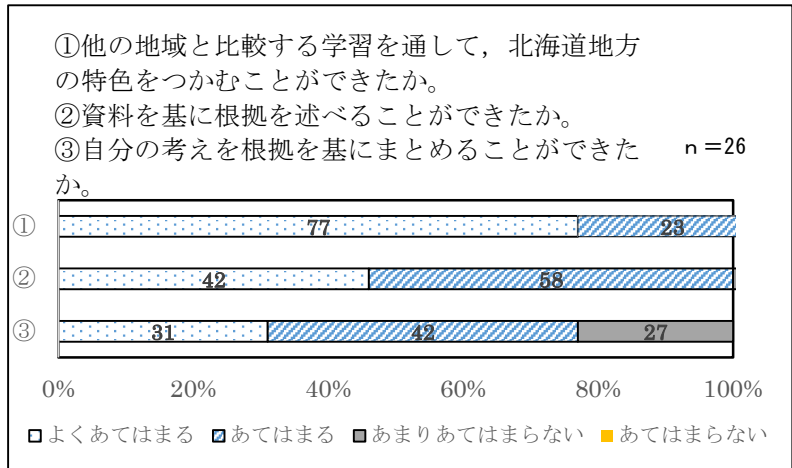


図7 比較・関連付けに関するアンケート結果(北海道地方)

べることは、よくあてはまると回答していた生徒が42%(11名)、質問項目③の結果では、よくあてはまると回答した生徒が31%(8名)だった。他の地域と比較させたり、関連付けたりさせたことで、根拠を見出すことや自分の考えまとめることができるようになってきたと考える。図8では、「タブレット型端末の活用は社会科の学習に役立ちましたか」、図9では、「電子黒板の活用は社会科の学習に役立ちましたか」という設問に対する結果を示している。これらの結果から、タブレット型端末や電子黒板の活用について北海道地方(1~2月)では、社会科の学習に役に立ったと回答した生徒の割合が、100%になっていた。回答の理由としては、「内容が分かりやすくなる」「タブレットで自分の見たい資料を自分のペースで見ることができたから」「黒板よりも文字が大きくて鮮明で見やすい」「動画があると授業内容が分かりやすい」という意見が多かった。タブレット型端末や電子黒板を活用することで、他の地域と比較したり関連付けたりするという考察の仕方が身に付いてきたと考えられる。これらのことから、タブレット型端末や電子黒板を活用して、複数の資料を基に、他の地域との比較や関連付けることや情報を共有させることは、地理的事象を読み取ることに有効に働き、生徒の思考を促し、地理的な見方や考え方を養うことにつながったのではないかと考える。

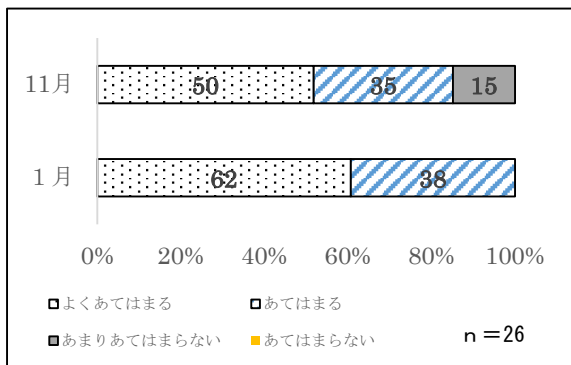


図8 タブレット型端末に関するアンケート結果

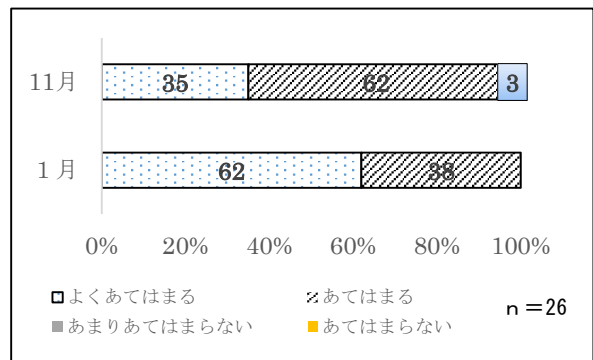


図9 電子黒板の活用に関するアンケート結果

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ タブレット型端末や電子黒板を活用して、複数の資料を効率よく見ながら、他の地域と比較する中で、共通点や相違点に気付くことができるようになっていった。そのことで、地理的事象の背景や要因について考える姿が見られるようになり、地域的特色を捉えることにつながっていった。
- ・ ICT機器を活用した共有する活動を通して、他のグループの発表を聞くことで、事象間を関連付けて考察することができるようになり、地理的な見方や考え方が養われてきた。
- ・ ICT機器を「つかむ」「調べてまとめる」「広げる」という3つの段階に応じて活用することは、生徒の思考を促し、根拠を基に自分の考えを表現する力を高めることに有効であった。

(2) 今後の課題

上記のような成果も見られるが、課題も明らかになった。他の地域と比較したり関連付けたりすることで、考察の仕方は身に付いてきたが、まだ考察が主観的であった。そこで今後、より客観的になるようにしていく必要がある。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会編』 平成20年9月 p.19
- 2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会編』 平成20年9月 p.128

《参考文献》

- ・ 小原 友行編 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』 2009年3月 明治図書

《参考URL》

- ・ 佐賀県教育センター 『平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査Web報告書』平成24年10月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H24_Webreport_center/index.html
- ・ 中川 一史 『普段着のICT活用』 2009年10月
http://www.yume-javea.jp/e-school/open/pdf/1030_nakagawa.pdf